

学 報

(昭和三十九年九月より昭和四十年八月まで)

○三月二十日 昭和三十九年度卒業式挙行。野村妙子ほか五十六名が卒業、翌二十一日新阪急ホテルで謝恩会が催された。

○四月二十二日 歓迎会。国文科に新しく入った二回生六十三名の歓迎会を作法室で行なつた。

○春の文学散歩。五月十五日 二回生が葵祭を見学。

五月二十七日 三回生が三輪方面へ万葉探索。原田教授・安田講師・野村助手参加。

○教育実習。六月十日より二十三日までの二週間、四回生六十名のうち教職過程を修める五十一名が樟蔭高校・中学に分かれて実習を行なつた。

○六月十八日 第七回国文学会評議員会。秋の総会及び会報のことにつき協議を行なつた。

講演 源氏物語の女君
久保 重教授
○十二月十日 四回生卒業論文を提出。

○一月二十一日 卒業論文発表会。四回生は例年通り、卒業論文についてテーマの撰択理由、内容概略、感想等を発表。

○二月四日 予饗会、第五教室においてなごやかな雰囲気の中に行なわれた。

○修学院離宮拜観。一月末から二月にかけて各グループ毎に拜観。

○秋の文学散歩。十月十六日、二回生が原田教授・吉田助手と共に鞍馬方面へ行つた。

○十一月一日 「樟蔭国文学」第二号発行。

○文化祭。十一月五日・六日・七日の三日間。国文科三回生・二回生が演劇「佐渡狐」を上演。

○十一月二十一日 第四回国文学会総会

講演 文学と私 安田章生教授
シンポジウム
源氏物語の女性 在学生

文学散歩

葵祭

五月十五日、降り続いた雨もあがり、すがすがしい五月の風と太陽を浴びて、街路樹の若葉が小躍りしている。今日は葵祭りだ。ちょうど御西下になった天皇皇后両陛下が御覧になるといふことで、私たちは喜びに胸をときめかきつつ行列を待った。

何千という視線を一身に受け、恥ずかしげに顔を伏せて歩いて来る先頭の馬。飾りたてられた車や馬。葵の葉をつけたお供の人などを見てみると、沿道の見物人までが平安朝の風俗に見えるようだった。雅楽の音の流れる車の後からは、十二単衣を身に纏った姫君を乗せた牛車が、わだちをきませながら美しい余韻を残しつつ、烏丸丸太町の交叉点を、二条通へと消えていった。

中学・高校・大学と古文の時間にも何度か出た葵祭を見、講義で聞いた朱雀通りや羅生門を想いつつ今日こうして京の街に居る事はこの上もなく楽しく、私たちはすっかり満足した。その昂奮をかつて「哲学の小径」と称されている疎水端を歩き、銀閣寺まで足をのばした。思う存分見て歩いた後、帰途についた時ほんとう五時を過ぎていた。疲れた電車の中で葵祭りの広告ビラが揺れていた。(二回生 嶽恭子)

三輪方面

五月二十七日、前日の暴風雨とはうって変つた上天気に、私たちは三輪方面へ万葉遺跡探訪に出かけた。明け方まで降り続いた雨で出足が鈍つたのか、十時半まで待つて安田青風、原田両先生と総勢七人という家族的編成で出発した。電車を下りた頃には、真夏のような太陽に、湿度

がぐんぐん上昇してまるでむし風呂さながらに汗びつしより、「こんな中をどうして文学散歩など……」と、内心後悔しながら仕方なくついで行つた。

しかし瑞々しい大木に蔽われた閑かなたたずまいの三輪神社に到着すると、「やはり来てよかつたわ」と一同喜んだ。安田先生は宮司さんとは御懇意であつたので、私たちまでもとても親切な御もてなしをいただき、いろいろ三輪神社のこと、この辺の史跡などくわしく説明して下さつた。その上ゆつくり休ませていただき都塵を清めてすがすがしい心持ちになつた。

三輪山の麓のうねうねと続く「山の辺の道」を歩いて万葉の気分を満喫した。額田王のよんだ奈良山を遙かに、大和平野の眺望は美しかった。檜原神社趾や笠縫邑跡など見て所々カメラに収めた。そこから引返り帰途についた。又いつかの機会に

この山の辺の道を端から端まで全部歩いてみたいと思いつつ、楽しかつた有意義な一日を感謝しつつ三輪を後にした。(三回生 山田伸枝)

昭和四十年年度講義題目

国文学概論	安田 章生教授
国文学史概説	原田 芳起教授
国文学研究	安田 章生教授
和歌史論	安田 章生教授
俳 諧	木村三四吾講師
西 鶴	木村三四吾講師
近代短歌	安田喜一郎講師
古典と近代作家	長野 嘗一講師
国文学講読	安田喜一郎講師
万葉集	安田喜一郎講師
伊勢物語	竹内美千代教授
宇津保物語	原田 芳起教授
源氏物語少女卷	久保 重教授
新古今集	西畑 実講師
浄瑠璃	横山 正講師

たけくらべ
にごりえ

山根 賢吉講師

国文学演習

源氏物語若紫卷
源氏物語橘姫卷

竹内美千代教授
原田 芳起教授

枕草子

原田 芳起教授

山家集

安田 章生教授

近代詩

安田 章生教授

国語学史概説

鈴木 一男講師

国語法概論

島田 勇雄講師

国語表現論

竹内美千代教授

話しことば

泉田 行夫講師

国語教育

鈴木 一男講師

漢文学及び漢文学史

今井 啓一教授

書道

炭山 南木教授

文学概論

黒田 正利講師

言語学概論

蛭沼 寿雄講師

美術史

今井 啓一教授

欧文学史

黒田 正利講師

日本史

今井 啓一教授

有職故実

大丸 弘講師

昭和三十九年度卒業論文題目

森鷗外「舞姫」について

赤松 玲子

「明暗」における小林と漱石

秋山 晴子

石川啄木研究

浅野 和子

藤村処女作品『若菜集』出版まで

井上紀代子

和泉式部

井上六津子

立原道造論

井植 豊

「雪国」の研究

伊藤 清美

和泉方言

池添 秀

志賀直哉論

池田 昌子

菊池寛の研究

池田 陽子

額田王二首の考察

出田 瑠子

芥川龍之介論

岩本 和子

源氏物語

上田 裕子

中河与一と「天の夕顔」植田百合子
高村光太郎と道程 浦久保一子
石川啄木研究―啄木の小説一考察― 大西 勝子

方丈記研究	岡下 佳子	西鶴の好色物についての研究	野村 妙子
宮沢賢治の童話	桐谷 昭美	白神 真子	橋本 法子
竹取物語研究	柏木 宣子	志賀直哉論	林 泰恵
自然主義文学	川田 睦子	「近松門左衛門」その描く遊女について	松本佐智子
森鷗外研究「高瀬舟」を中心に	川原 昌子	有島武郎論	島崎藤村 五つの長篇小説
樋口一葉	河南 孝子	森鷗外の歴史小説研究	美田 佳子
石川啄木論	木梨 敬子	和泉式部研究	玉置 温子
近松門左衛門論	木村 浩子	風土記研究―豊後風土記と六郷満山―	堤中納言物語に表われた心理的描写への一考察
島崎藤村研究	北折美代子	花伝書の考察、世阿弥の芸術論	村上 明子
夏目漱石「行人」研究	久保智恵子	山一	近松門左衛門
夏目漱石の研究、作品論「こゝろ」	小池 映子	島崎藤村論	夜半の寢覚
夏目漱石研究	小杉 八重	西鶴、作品の推移	在原業平研究
兼好法師論	小谷 妙子	夏目漱石 三部作の展開とその関連	有島文学における自我追求の悲劇
源氏物語の研究	佐藤 美栄	大和三山の文学	「今昔物語」世俗の都の世界
樋口一葉研究	阪口 隆美	錦 トミ子	山村 淑美
漱石論	椎葉アヤノ	長岡加津子	吉田 信子
			吉積 邦

受贈書 昭和三十九年十月〜同四十年九月

- 跡見学園国語科紀要 一三
 跡見学園国語科研究会
 香椎潟 第一〇号
 福岡女子大学国文学会
 学苑 三十九年一〇月 一月 四〇
- 年一月 二月 三月 四月 六月
 八月 九月
 学術研究 第一三号
 早稲田大学教育学部
 学大国文 第八号
- 大阪学芸大学国語国文学研究室
 金城国文 第一一卷第二号、第三号
 金城学院大学国文学会
 高知女子大国文 創刊号
 高知女子大学国語国文学会

- 高知大学学術研究報告 一三十一、六、九
高知大学
- 甲南国文 第一二号
甲南女子大学国文学会
国語国文 創刊号
金沢大学国語国文学会
国語国文学 一五、一六
名古屋大学国語国文学会
国語国文学誌 第八号
学智院大学国語国文学会
国語国文学研究 第一号
熊本大学文学部国語国文学会
国語国文研究 第二九号、第三〇号
北海道大学国文学会
国語国文学報告 第一八集
愛知学芸大学国語国文学会
国文 第二二号 第二三号
お茶の水女子大学国語国文学会
国文学 第六号
愛知大学国文学研究会
国文学 第三七号 第三八号
関西大学国文学会
国文学漢学論叢 第一〇輯
東京教育大学文学部
国文学研究 第三〇集、第三二集
早稲田大学国文学会
国文学叢 第三五号 第三六号
広島大学国語国文学会
- 国文学論考 創刊号
都留文科大 国語国文学会
語文 第二五輯
大阪大学国文学研究室
語文 第二〇輯 第二一輯
日本大学国文学会
語文研究 第一九号 第二〇号
九州大学国語国文学会
試論 第九・一〇合併号
武蔵野・甲南文学会
実践文学 第二三号、第二四号、第二五号
実践文学会
女子大 国文 第三五号、第三六号 第三七号 第三八号
京都女子大学国文学会
人文学報 第四五号
東京都立大学人文学部
人文研究 第一六卷第三号
大阪市立大学文学会
人文論究 第二五号
北海道学芸大学函館人文学会
水門 創刊号 二号 三号 四号 五号
水門の会
成城文芸 第三八号 第三九号
成城大学文芸学部研究室
全国国語国文学会春期大会展示目錄
- 昭和女子大学近代文庫
鶴見女子大紀要 第二号
鶴見女子大学
帝塚山短期大学紀要 第二号
帝塚山短期大学
東洋文学研究 第一一号 第二二号 第一三号
早稲田大学東洋文学会
都大論究 第四号
都立大学国語国文学会
日本歌謡研究 第二号
日本歌謡学会
日本文学 第一三号 第一四号
立教大学日本文学会
日本文学研究 第四号
大東文化大学日本文学会
日本文学誌要 第一一号 第二二号
法政大学国文学会
日本文芸学 創刊号
関西大学日本文芸学会
文学論集 第六輯
佐賀大学文理学部国語国文学会
文学論藻 第二八号 第二九号 第三〇号
早稲田大学国語国文学会
文体論研究 四
日本文体論協会
文芸研究 第一三号

明治大学文芸研究会
文芸と思想 第二七号

福岡女子大学国文学国文学会

平安朝文学研究 第二卷第一号

早稻田大学国文学会平安朝文学研究
会

法政大学文学部紀要 第一〇号

法政大学文学部

法文論叢 第一六号 第一七号 第一
八号

熊本大学法文学会

山辺道 第一一号

天理大学国文学研究室

立命館文学 一九六四年一号 二号
三号 五号 一〇号 一一号 一二号

立命館大学人文学会

論究日本文学 第二四号

立命館大学日本文学会

執筆者紹介

原田 芳起

本学教授

竹内美千代

本学教授

野村 妙子

本学助手
(昭和四十
年卒業)

木村喜代子

本学学生

西畑 実

本学講師

樟蔭国文学 第三号

昭和四十年十一月十五日印刷
昭和四十年十一月二十日発行

編集者 国文学会
大阪樟蔭女子大学
(代表者 安田章生)

印刷所 共進社印刷株式会社
大阪市東区元伊勢町五三六

発行所 大阪樟蔭女子大学
国文学会
布施市菱屋西二五八